

挽く 彫る 編む

白彫りの仕事場。丹波で「白彫り」の業を営む  
れる家に、先代の仕事場、道具、製品などが  
そのままに残されていた。



ウス彫りの道具



ウス彫りの道具



作りあいたりのくまカゴ



いろいろな手製編みかご



カンジキ



タンガラ(背負いかご)



カンジキ



ハラ 半製品



船形山神社の祭礼用のハラ



舟沢ウス半製品



明部彫りの特徴舟沢ウス

丹波の旧東では、さまざまな木製の生活用品  
が広く作られていた。農作業が機械化する  
昭和三十年代まで広く使われた船形山の木製  
正月用の籠に使う折敷、脚の彫りこまが特徴的  
な丹波の目、船形山神社の祭りで大層に売られ  
た「船形山」印の靴（ハラ）などがあつた。  
これらの木製品は、それぞれ選んだ木を、選  
じた時期に切り出し、選んだ技、加工をし、特  
定の職工に任じらる。それら仕事の体系が、  
特定の業に代々受け継がれてきた。  
こうして販売される木製品のほかに、日常の生  
活で作られた、山仕事の道具の類、重労働の  
ためのユキハラ、材木や炭を運ぶソリ、雪山を  
歩くカンジキ、山の背負いかごであるコダシなど、  
山からさまざまな木、藁、皮を採り、みずから  
加工して仕上げられた。



畑に朝日がさす



採